

【市議会最前線】市民参画型の政策立案サイクルを構築（政策提案型議会への変化）＝掛川市議会（静岡県）

22/06/01 08:00 Ln1

掛川市議会では、2013年3月に議会基本条例を制定、「議長、委員長等は、議員間での討議を中心に会議を運営し、その結果を市政に反映させるような合意形成に努める」としています。

条例制定後の13年10月から市内9会場で議会報告会を開催しており、翌14年1月には政策討論会をスタートさせました。

常任委員会の活性化を議論した17年度からは、

- 1、常任委員会で調査研究のテーマ設定（1年または2年間）→
- 2、研究成果（政策素案）を議会報告会で報告（市民意見を聴取）→
- 3、常任委員会協議会で行政側と調整→
- 4、常任委員会で提言を作成→
- 5、委員会の政策案を全議員による政策討論会で合意形成 →
- 6、市長に提言

というサイクルを回していく、市民参画型の政策立案サイクルを構築しています。

議会報告会については、市内9か所（中学校区ごと）で開催し、参加者数は毎年500人～600人程度、コロナの感染拡大後の2020年以降は動画配信によるWeb開催となっていますが、市民からは、「やはり実際の報告会の方がいい」という意見、「Webで自宅視聴できたことは良かった」という意見がありました。

常任委員会のテーマ制による調査研究に市民意見を取り入れ行った過去の提言には、「掛川市の都市づくりと地域自治組織のあり方（総務委員会原案）」「公共施設マネジメント（環境産業委員会原案）」「新型コロナウイルス感染症対策（文教厚生委員会原案）」等があります。

今後、提言内容が市予算や組織に反映されるよう、政策提言の検証と成果の見える化を図り、より深い調査研究から実りある政策提言となるよう、政策立案サイクルのブラッシュアップを目指していきます。（了）

